

VERITAS vos liberabit



鹿児島純心大学
附属図書館報
第13号(No.13)
編集:図書館運営委員会
発行日:2024.3.14

特集 シャローム shalom 平和

図書館報名「VERITAS vos liberabit」は、ラテン語で「真理はあなたたちを自由にする」(新約聖書ヨハネ福音書8章32節)という意味です。

■巻頭言

図書館長 教授 仙波 玲子

1922年11月、20世紀を代表する理論物理学者アルベルト・アインシュタインが来日しました。2022年、駐日ドイツ大使館は来日100周年を記念して、大使館外壁にウォールマンガアーティスト内田慎之介の7枚の絵と説明文を掲示し、アインシュタインの日本旅行を振り返りました。そして、昨年、この時の絵と説明文をパネルにし、日本各地で巡回展が開催されました。5月16日から28日まで「川内まごころ文学館」の開館20年特別企画として展示されました。実は、アインシュタインを日本に招いた出版社「改造社」の社長は川内出身の山本實彦だったのです。

山本實彦は1885年、現在の薩摩川内市大小路町に生まれました。上京してジャーナリストになり、1919年に改造社を創業し、総合雑誌『改造』を創刊しました。文芸誌としての『改造』は、志賀直哉、芥川龍之介、武者小路実篤など名だたる文豪たちの作品を掲載し、大正・昭和を代表する文芸雑誌に数えられました。

一方で山本は、日本の正義感や倫理観に縛られず広い視野を持って外国に学ぶことを肝要と考え、イギリスの思想家バートランド・ラッセルをはじめとする海外の知識人に寄稿や訪日を積極的に依頼しました。そして、ラッセルの推薦もありアインシュタインを招くことにしたのです。

アインシュタインは、1922(大正11)年11月17日神戸に降り立ち12月29日に門司から離日するまでの約40日間、各地で講演会を開き、行く先々でアインシュタインが驚くほどの歓迎を受けました。アインシュタインの1921年度ノーベル物理学賞受賞が来日直前に正式決定し、さらに、各種メディアを使った改造社の大々的な宣伝の効果もあって、アインシュタインブームが起きたのです。時代を読み取る嗅覚と行動力によって自ら呼び込んだ山本實彦の強運と言えます。アインシュタインの日本滞在中、常に付き添った實彦は、アインシュタイン

の謙虚な人柄に感銘し、生涯、アインシュタインを敬愛し、彼との交流を誇りにしました。

後に山本實彦は政界に進出しました。代議士になって取り組んだのが川内川改修工事でした。太平橋そばの川内川ほとりに立つ實彦像は、この功績を顕彰して2020年に建立されたものです。

残念ながら今では知る人の少ない山本實彦ですが、今回のアインシュタイン来日100周年は、広い視野と進取の精神、実行力を持った川内生まれの傑物のことを思い出す機会を与えてくれました。

1952年に實彦が死去し、1955(昭和30)年に『改造』は廃刊となりました。同じ1955年、平和主義者であったラッセルとアインシュタインは核兵器廃絶を呼びかけました。この直後にアインシュタインは亡くなりましたが、湯川秀樹ら著名な科学者たちが賛同し連名で署名しました。このラッセル-アインシュタイン宣言は世界的な核兵器廃絶運動に繋がりました。今また世界は、核兵器の脅威にさらされ、平和の意味を考えざるを得ない時を迎えています。先人の経験や思いに学び、今の時代にふさわしい平和のあり方を考える必要があります。

山本實彦とアインシュタイン来日についてもっと知りたい人は、本学国際文化研究センター編『新薩摩学5 雑誌「改造」とその周辺』(南方新社)を読んでみてください。また、薩摩川内市中郷にある「川内まごころ文学館」は實彦と改造社に関する常設展示をしているのでぜひ訪ねてください。



contents

巻頭言	1
図書館長 仙波 玲子	
Book Review	2
(看護2)古垣 梨々花 (健栄2)村里 澄奈 (教・心3)西 咲蘭子 福岡 美和 寺師 美里	
思うこと	5
(大学院1年)内徳 伊織 石井 洋平	
forum	6
図書館サポーター	7
お知らせ 編集後記	8



Book Review



学生さんにお薦めの本を紹介していただきました



『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』
汐見夏衛著
スターツ出版, 2023年

この本は、汐見夏衛さんの作品で最近映画化され、見た人も多いのではないのでしょうか。家庭環境や日々の生活に不満を抱える少女百合は、進路をめぐる母親とケンカになり、家を飛び出します。近所の防空壕跡で一夜を過ごし、目をさますと戦時中の日本にタイムスリップします。偶然通りかかった彰に助けられ、彼と過ごす日々の中で彰の誠実さと優しさに惹かれていきます。しかし、彼は特攻隊員でほどなく命を懸けて戦地に飛び立つ運命にあるのです。のちに百合は、期せずして彰の本当の思いを知るようになります。

私はこの本を読み、戦争により多くの大切なものが失われていく切なさで胸がしめつけられました。彰は、教師になりたいという自らの夢を語りながらも特攻隊員として自分の命を世のために捧げ、未来の平和を守るために戦いました。今の日本は、彼が望んでいた世界であるのだと知り、特攻隊員たちの勇気と犠牲を思う

と、今の時代がどれだけ幸せであるかを感じずにはいられません。

また、大切な人たちと一緒にご飯を食べられること、夢に向かって歩めること、普通の日常がどれだけ幸せなことか考えさせられました。

また、一人一人平和の物差しは違うとも感じました。日本は、戦争のない平和な社会になりましたが、現代が平和だと言い切ることはできないと思います。汚い言葉を吐きたくなくなるほど、うんざりする現実には、残念だけど変わらず私たちの時代にもあります。もしかしたら変わらないのではないかとすら思ってしまう。だからせめて目の前にいる大切な人たちと過ごせる日々や幸せの味を共にするひとときを守り、大切に思うことが私にとっての平和であると思いました。人々の日常を破壊する戦争という行為が、何度も繰り返されてきた時代の果てである現在。毎日帰るべき場所へ帰れることの幸せを感じられる作品を世代や時代を超えて、多くの人に触れて欲しいです。

看護学科2年 古垣梨々花





『平和のバトン：広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶』
弓狩匡純著（くもん出版）

図書館所在 大学1F和書 369.37 YU

みなさんは1945年8月6日の原爆のことについてどれくらい知っていますか？

小学校や中学校の授業で原爆の写真や資料をもとに先生から様々なことを学んだと思います。また、原爆ドームを訪れて被害の大きさや平和のありがたさを感じた人もいます。しかし、終戦から約80年経過して次第に戦争の記憶が風化され始めていることに気付いているのでしょうか。

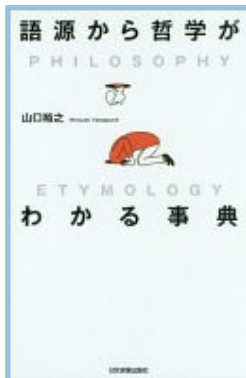
この本には、被爆体験者の証言をもとにした絵を描いた高校生たち取材した話が紹介されています。次の世代に平和の大切さを継承していくという強い気持ちを持って取り組んだ高校生たちは、証言を何度も聞き絵を手直ししながら、およそ1年かけて原爆の凄惨な様子を描い

ています。いくら言葉や映像だけで戦争や平和のことに

ついて教えられても記憶に残りづらいです。しかしながら、戦争の苦しさ、平和の大切さをしっかりと伝えていくために長い時間をかけて完成させた作品は私たちの心に残るものばかりです。被爆の様子が描かれた絵には、「戦争はこれからの世界にあってはならない」「多くの尊い命が奪われてしまった」「平和な日常がともありがたい」などのメッセージが込められていると感じました。

被爆の実相を確実に後世に伝えていきたいという高校生の気持ちが作品を通じて感じられる本になっています。皆さんも、ぜひ読んでみてください。

健康栄養学科2年 村里 澄奈



『語源から哲学がわかる事典』
山口裕之著
（日本実業出版社）

図書館所在
大学1F和書 130 YA

哲学って難しそうで、とっつきにくそうなものですが、分かったらカッコいいと思いませんか！？

この本は『語源から哲学がわかる事典』という題名の通り、哲学の用語を語源から読み解いて説明しています。

筆者の山口裕之先生は 徳島大学で哲学の授業をしています。そのなかで、読みやすい哲学入門書はないかという学生からの質問に長く答えを出すことが出来なかったそうです。そこで、「哲学用語が難解」だという初学者のつまづきをなくすために、ご自分で入門書を書くことにしたそうです。そうして誕生したのが、哲学の用語を筆者の経験とともに辞書形式で読むことができるこの本です。

特に哲学についての説明でとても分かりやすいと思った文を紹介します。「われわれは、新しいことを考えるときにも、既存の言葉を用いて語らざるをえない。だからといって、詩人が

しばしば嘆くように「言葉なんかいい方がよい」ということはない。言葉がなければそもそも考えることができないからである。むしろ、これまで語ることはできなかったことをいかに語るかというところに哲学の醍醐味がある。」という文です。

例えば、新しい魚が発見したとしてその魚を人の頭にイメージとして伝えるには、何色なのか、どの魚に似ているのか、どのような特殊な行動をするのかなど、今実際にイメージできるものの中から説明していくしかないということです。こうやって新しいものを説明したり考えたりすることが哲学の基本なのではないでしょうか！

私は、言葉がない方が平和な世の中になりそうだと思っていて、ジェスチャーだけで会話ができないのか考えることがあったので、この文に出会ったときにこうやっていろんな考えが浮かぶのも言葉があるからなんだと不思議な気持ちになりました。

みなさんの日常生活の疑問や考えていることのヒントがこの本には書かれているかも！ぜひ、手に取ってみてくださいね。

教育・心理学科3年 西 咲蘭子



Book Review

先生方にお薦めの本を紹介していただきました



『天国にいちばん近い島』
森村桂著（角川書店）

図書館所在
大学1F文庫 915.6 MO

「海をね、丸木舟をこいで、ずうっとずうっと行くんだ。するとね、地球の、もう先っぽのところに、まっ白な、サンゴで出来た小さな島があるんだよ。それは、神さまのいる天国から、いちばん近い島なんだ。（中略）その島は、いつ神さまがとびおりても痛くないように、花のじゅうたんが一面にしいてあって、天に近いからいつもお日さまを浴びて、明るくて、あったかいんだよ。その島の住人たちは、神さまと好きなだけ逢えるからみんな幸せなんだよ」という書き出しに、当時の私は神さまのいる夢のような天国に近い島に憧れ、心踊らされたことを記憶しています。これは、作家の森村桂が幼い時に父親から聞いたニューカレドニアを舞台に書かれた旅行記『天国にいちばん近い島』（1966年出版）です。

著者は、今いる環境が決して幸福ではないと感じ、会社を辞め借金し、父親が言っていた天国にいちばん近い島に思いを馳せ単身、鉾石運搬船に乗り込みます。そして、2週間後、島に降り立ちます。そこは、赤土の山が続き木は緑の色がうすく、どこもかも乾ききっている。物価は日本の4倍、2日働いて5日遊ぶ、怠け者のような現地人。父親が語ってくれた夢のような島はそこにはなかったのです。さらに体調不良、手術と度重なる不幸に心が折れそうになります。しかし、現地人に助けられ、人情に触れ交流を深めながら、本当の心を直観し帰途につきます。

フランス政府に占領されて、赤土の山いわゆるニッケルが全部本国へ行ってしまおうと、現地人は文句を言いません。フランス人が建てるような家や、便利な文明機器など必要ありません。ちょっと足をのばせば、マンゴーもパイヤもヤシの実も食べ放題、眠くなったらヤシの葉を敷いて寝ればいい。2日働けば生活できる。ダイヤモンドよりももっと明るい星が輝いている。一番光った星は自分のものだって言ってもだれも文句を言いません。神さまがくれたんだから……。現地人のゆったりとした暮らし、助け合う文化、今あるもので十分と思える価値観、彼らにとっての平和の全てが詰まった象徴が『天国にいちばん近い島』なのです。

そして、著者にとって決して幸福ではないと感じた環境が本当は「平和」だったのではないのでしょうか。たった一人で待っていてくれる母の存在、快くお金を貸して送り出してくれた親戚や友人たち、一通の手紙だけで乗船させてくれた鉾石運搬船の会社社長など、著者の周りにいる大切な人たちがいる環境が「平和」なのです。

私たちの「平和」に対する考え方や価値観は異なります。それぞれの持つ「平和」への想いを大事にし、互いの考えを尊重しあうことがいつの世も大切ではないかと思えます。また、「平和」に暮らせる日々感謝し、大事に過ごしたいですね。

この本は、50年以上も前に出版されましたが、ユーモアあふれ、テンポよく描かれており今でも楽しく読めます。夢のような「天国にいちばん近い島」へと皆さんを誘ってくれることでしょう。

看護学科 教授 福岡 美和





『星の王子さま』
サン=テグジュペリ著
(新潮社)

図書館所在
大学1F和書 953 SA

みなさん、「星の王子さま」をご存じでしょうか？金色の髪、黄色い長いスカーフにかわいい小さな目、書籍を読んだことのない人でも星の王子さまの愛らしい姿を見たことがあると思います。また、2023年はサン=テグジュペリ「星の王子さま」出版80周年という記念すべき年だったそうです。

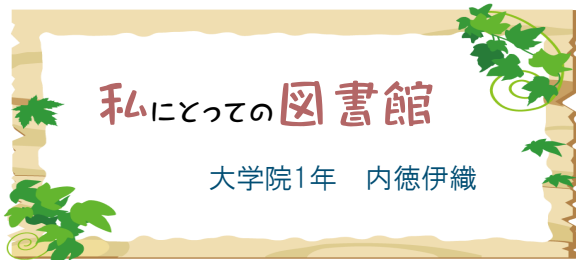
砂漠に不時着した操縦士とある小惑星から来た少年、星の王子さまとの出会いから別れまでを描いた物語です。故郷の小惑星にいる1本のバラと喧嘩をしたことをきっかけに、様々な小惑星を訪れ、そして地球に着いたこと、旅路では自分の体面を保とうとしている王様や自分を賞賛に値するという自惚れ屋、時間に追われる実業家、たった1本のガス灯の点灯人など少し変わった大人たちとの出会いや交流に

ついて話してくれます。また、地球で出会ったキツネの言葉から、1人だった小惑星での生活にとって、実はかけがえのない存在が1本のバラだったと気が付き、バラのいる故郷に帰ろうとする…、といったあらすじになります。

この物語には、明確な「平和」の記載はありません。星の王子さまと1本のバラとの関係から「本当に大切なものは目に見えないこと」など大切な存在との「絆」や「責任」を教えてくれます。一方で、この物語が生まれたのが、第二次世界大戦の最中であり、作者が亡命したアメリカで出版されたという背景があります。冒頭作者がメッセージを宛てた「親友」はユダヤの迫害を受けた人物であるとも言われています。平和も目に見えません。また、平和も同様絆が必要で、平和を祈るだけでなく行動で示す責任が私たちにはあるのでは？ということを見せてくれているように感じます。

聖書の次に世界中で多くの言語に翻訳されている書籍とも言われ、絵本や映像化もされている作品です。この物語が生まれた背景も含めながら、物語を紐解き、あなたが思う大切なことを星の王子さまと一緒に見つけてみてはいかがでしょうか。

健康栄養学科 講師 寺師美里



私が図書館を利用する機会は大きく分けて2つあります。1つは勉強のための文献探し、2つ目は自分の好きな図鑑や絵本をみるときです。私は本を積極的に読むことはないまま院生になりました。小学校の読書感想文も適度に誤魔化してきましたし、漫画以外手にとっても全く読む気になれないと避けてきました。しかし、院生になってからというもの自分自身の語彙力のなさを痛感する日々です。クライアントさんの気持ちを感じ取って、その状態をそのままに伝えたいのに、その温度感や微妙な感覚を上手に言葉にして伝えることができないんです。例えば、「泣いている」という状態の程度を表す言葉だけでも多くの表現が存在します。演技しているように綺麗に泣いているのか、子どものように顔を歪めて苦しそうに泣い

ているのかで相手に与えるイメージは大きく変わってくると思います。さらに、クライアントさんに初めにあった時の印象やその人の醸し出す微妙な空気、「なんか今日はいつもと違う」といった感覚はあっても、自分が何をどう感じているのか分からない、どう表現していいか分からないといったことが頻繁にあります。「なにか感じているのになにか分からない」状態が今は大変もどかしいと感じます。

クライアントさんの状態にぴったり合うような表現で、簡潔に伝えたいとなれば自分の中に様々な言葉のバリエーションを持つておくことが大切です。そうなるためには、日頃の読書の積み重ねが非常に大切なんだと痛感しているところです。伝わらないもどかしさを感じつつ、それがとっても悔しくて、今になって少しずつ本と向き合おうと意識しているところです。

私は自分の感じたことを言葉にする力は院生でなくても大切なのではないかと思います。学生であれば一度は本と向き合わざるを得ないときが来ると思います。勉強のために仕方なく文献に触れる機会は多くあるとは思いますが、学生のうちに積極的に本と向き合う機会をつくって、内面を豊かにすることも大切なのではないのでしょうか。



図書館のトイレはいつも綺麗に！

教育・心理学科
准教授 石井洋平



皆さんは、図書館や書店に行って本を物色していると、突然尿意や便意に襲われてトイレに駆け込んだ経験がありませんか？私は度々あります。あの現象は何なのでしょう？これについて調べてみると、なんとあの現象には名前があるのです。その名も『青木まりこ現象 (Mariko Aoki phenomenon)』。なんとも不思議なネーミングです。これは、青木まりこ（ペンネーム）さんという女性が1985年にある雑誌の読者投稿欄に「書店にいと突発的な便意をもよおすことがしばしばある」と投稿したのが始まりだそうです。その投稿を読んだ読者の間で、共感の声が広がり、投稿者の名をとって「青木まりこ現象」として知られるようになったというわけです。

では、なぜ図書館や書店にいくとトイレに行きたくなるのか？実はまだよくわかっていません。様々な説があるようですが、その一つは脳と腸がお互いに密接に影響を及ぼし合っているという「脳腸相関」によるものだという説です。例えば、緊張などのストレスを感じるとお腹が痛くなったり、便意をもよおしたりすることがありませんか？これは脳が

自律神経を介して、ストレス刺激を腸に伝えるからです。逆に、腸に病原菌が感染すると、脳で不安感が増すという報告もあります。つまり、物音ひとつしない静かで、棚にびっしりと詰まった高密度の情報空間という図書館において、知らず知らずに緊張感が高まり、そして、それが腸の働きに影響を及ぼしているからだというのです。反対に、図書館という非日常的な空間で好きな本を探すという行為が心身をリラックスさせ、便意をもよおすのではないかという人もいます。とにかく、脳と腸の関係で起こる現象ではないかという説です。他には、「時間を経た古紙やインクの匂いが便意を促す」という説があります。この説に関しては、ある研究者が3年の歳月をかけて図書館や本の匂いを採取し実験を行った結果、塩化ビニール樹脂のようなプラスチック素材を柔らかくするために用いる「可塑剤」に便意を促す効果があることを報告しています。確かに、図書館や書店（特に古本屋）には、独特の匂いがありますね。その他にも、書棚の本を探すときの姿勢が関係しているという説や条件反射説など、様々な説があるようです。どれも大変興味深い説ですね。

何はともあれ、図書館で本を探していてトイレに行きたくなるのは、あなただけではないのです。青木まりこさんをはじめ多くの方が、図書館に行くとトイレを利用したくなるんです。そんな時、気持ちよくトイレを利用したいではありませんか。他の数知れない青木まりこさんのために、図書館のトイレは綺麗に使用しましょう。図書館のトイレに限ったことではありませんが……。

forum

図書館の七不思議 其の七 からの脱出!?

図書館報第4号で紹介した図書館にある謎の石の正体がわかりました。日本の近代化を支えたブラックダイヤモンド、つまり石炭です。今では殆ど使われなくなりましたので、一体何？と思う方も多いのではないのでしょうか。皆さんご存じの『鬼滅の刃：無限列車編』に出てくる列車の燃料になっているのが石炭です。と言っても、これはマンガの世界ですね。本物の石炭を見たことがある人はあまりいないのではないのでしょうか。

石炭を見たことのない人、見たい人、図書館のどこかに隠れている石炭を探してみましょう。

石炭を眺めながら日本の近代化産業遺産への邂逅に浸ってみるのもいいかもしれません。

*図書館報第4号も是非ご覧ください！



図書館サポーター募集中！

開学以来初めて「図書館サポーター」を募集し、4名の学生さんがサポーターとして活躍してくれることになりました。

サポーターの初仕事は、新入生オリエンテーションで使用する動画の作成です。どんな動画ができるのか、楽しみです！

申し込みはこちら



撮影の様子



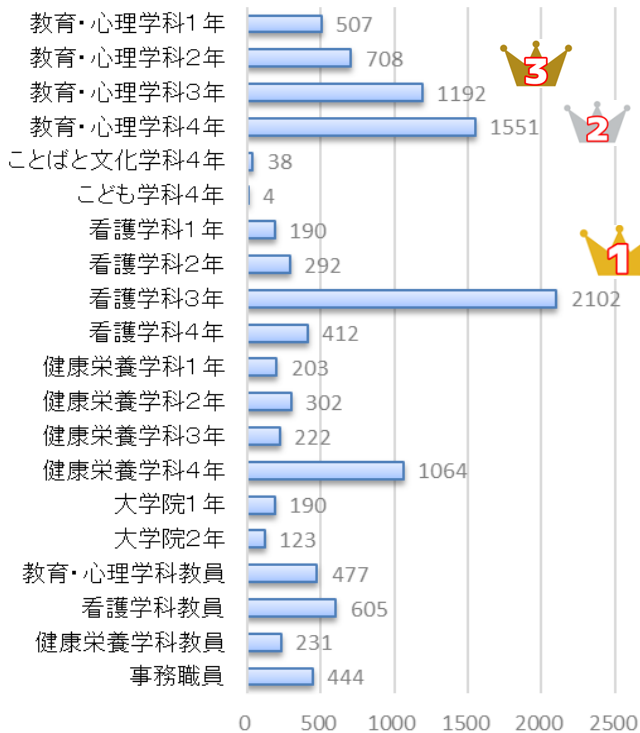
クラスマッチしてみました



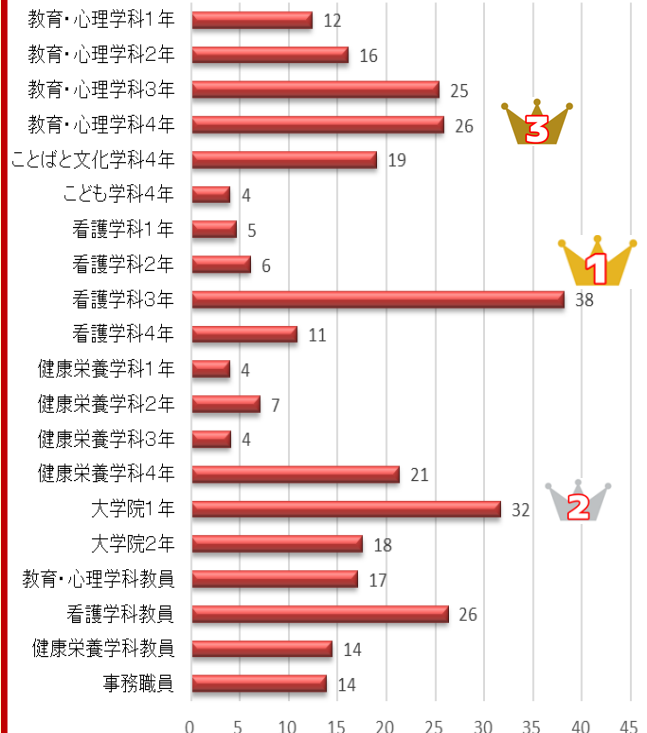
2023.4.1 ~ 2024.3.12

優勝は看護学科3年生です
おめでとうございます！

貸出冊数



1人当たりの貸出冊数



お知らせ

古本募金のご報告



古本募金を開始して7年目となりました。
今年も沢山の本を寄付していただきありがとうございました。いただいた古本は換金され「純心未来基金」へ積み立てられ、学園の教育・研究のために役立てられます。これからも宜しくお願いします。

2023年度 寄付金額合計	62,374円
(内訳)	
大学の除籍本・回収ボックス	61,174円
卒業生・保護者・旧職員ほか	0円
きしゃぼん（嵯峨野株式会社）	1,200円

寄付金で、オープン・キャンパス
等で着用するポロシャツを作りましたので、ご報告いたします。
ありがとうございました。



◆鹿児島純心大学附属図書館は卒業後も利用できます◆

在学時より利用制限はありますが、貸出も可能です。ご利用下さい。*貸出冊数5冊、貸出期間2週間
大学に来られたら、まず大学の受付で入館の手続きを行って下さい。その後図書館へお越しください。
皆様のご利用をお待ちしています。



編集後記

今回の図書館報のテーマは「シャローム」。ヘブライ語で「平和」を意味します。ヘブライ語は旧約聖書の言葉ですが、現在ではイスラエルの公用語として口語としても復興されており、挨拶の言葉としても日常的に使われています。アラビア語の挨拶としてよく知られているのは「サラーム」でしょうか。東京ディズニーシーのアラビアンコーストで使われているのを知っている人も多いのではないのでしょうか。これは、アラビア語の「平和」を意味する言葉から来ているそうです。

ヘブライ語の「シャローム」とアラビア語の「サラーム」は、語源も共通と言われ、「平和」を表すと同時に、こちらでも日常的な挨拶としても用いられています。今、ヘブライ語を話すイスラエルの人びととアラビア語を話すパレスチナの人びとが激しく対立しています。

対立を解消するための様々な取り組みも行われてきましたが、そうした取り組みに共通しているのが、相手の事を知る、相手の事を理解するという点だと思えます。今回の図書館報にはさまざまな平和に関連する本が紹介されています。これらの本の紹介を読んでも、知らなかった事を知る、ということがとても大切だと感じます。

書籍は、あなたを新しい世界へと導いてくれるとおもいます。(KM)



鹿児島純心大学附属図書館報

VERITAS vos liberabit

No.13

編集・発行：図書館運営委員会

発行日：2024年3月14日

〒895-0011

鹿児島県薩摩川内市天辰町2365番地

TEL：0996-23-5311 / FAX：0996-23-5030

E-mail: ml-veritas@k-jundai.jp